

エディトリアル

東京ベイ・浦安市川医療センター 副管理者 木下順二

医療をサポートするため医療機関内にはいくつかの「窓口」が存在している。当誌の読者には診療所や中小病院、特に公的医療機関の勤務医が多い。勤務医にとっては「窓口」の中でどのような業務が行われているのか、理解する機会が意外と少ないのではないだろうか。また、医師が適切な診療報酬算定について知ることは、医療費の無駄を省き、医療機関の経営改善にも有用であると思われる。このような観点から今回の特集を企画した。

診療行為が保険請求され実際にお金として医療機関に入ってくるまでには、数多くのプロセスと、月単位の時間がかかっている。「医療行為はどのようにしてお金に変わるのか」では、その一連の流れについて解説していただくとともに、窓口での会計、未収金、レセプト、返戻、査定、再請求、保険外診療、労災、自賠責、公費補助、高額医療、外国人旅行者への対応といった、病院の会計窓口での仕事について幅広く解説いただいた。日本で医師として働く上で必須の基礎知識である。

保険診療においては、そのルールに沿って医療行為を行う必要がある。これを逸脱すると「査定」や「返戻」を受けることになり、それは医療機関の損失に直結する。「医師に必要な適切な算定のためのTIPS集」では、外来診療に的を絞って、適切な算定のための具体的なポイントを記していただいた。多くの項目をピックアップしていただき、医師にとって有用なTIPS集となっている。今日の診療からすぐに役立つことができるだろう。

特にDPC導入病院では診療情報管理士の活躍が期待されている。医師の記載した診療録を点検・整理し、含まれる膨大な情報を活用できる形にする。「診療情報管理士の業務と医師に求めるカルテ記載の注意点」では、診療情報管理士による基本的な業務のほか、より良い診療録記載のヒント、情報活用の実例などもご紹介いただいた。

診療報酬上の患者サポート体制加算の要件を満たす目的もあり、医療機関には患者相談窓口が置かれることが多くなった。一般的な相談のほかに、クレームへの対応もこの部署が担当することが多い。「患者相談窓口とクレーム対応」では、相談窓口の業務の実際、クレームへの適切な対応、クレームを未然に防ぐために医療者が気をつけるべきこと、といった事項について、事例も交えて解説していただいた。

患者さんの傷病に関する情報は非常に重要で守らなければならない個人情報である。一方で、適切なケアのため、家族や行政機関などと診療に関する情報を共有しなければならない場合もある。「医療機関と個人情報保護」では、2015年に改正され、2017年5月に全面施行となった「個人情報の保護に関する法律」を踏まえ、守秘義務や情報漏えい対策など医療機関の職員が特に注意しなければならない点、また診療録開示を踏まえたカルテ記載、といった事項について記載していただいた。

今回の特集が、医療機関における医師と事務職の連携・協働を促進するきっかけとなれば幸いである。